

開新会部視察研修に行ってきました

下浦町の発展及び、イベントの企画・運営の参考とするため、開新会が11月13日（土）～14日（日）に視察研修を行いました。

今年は10月中旬より県内の新型コロナウイルスの感染拡大が収まり、11月初頭には感染のリスクが大きく減少したため、事前に開新会の全体会を行い、視察研修をする事となりました。研修当日は天候にも恵まれ絶好の研修日和となりましたが、コロナによる規制緩和が行われたばかりの影響もあってか、少人数での研修となりました。また、開新会では毎年九州各地のふるさと祭りを巡り、地域性あふれるイベントを視て回りますが、今年はコロナの影響で11月のイベントやふるさと祭りは軒並み中止となっており、今回は人吉の豪雨災害の復興視察と、熊本県内道の駅の特産物・加工品を視察しました。

道の駅の関係で芦北より人吉に向かいましたが、途中の球磨川沿いの道では、所々通りの木々にボロボロになったブルーシート等が引っ掛かっており、水嵩がどこまで増したのかが如実に分かるほどでした。以前より研修の合間で立ち寄ることの多い青井阿蘇神社も、正面蓮池の欄干はまだ破壊されたままで、生い茂っていた蓮の葉も殆ど無くなっている状態でした。しかし、神社内では菊祭りが行われ、七五三のために多くの参拝者の方が訪れており、子供たちの元気な声も聞くことが出来ました。道の駅は「不知火」「芦北デコボン」「子守歌の里五木」「清和文楽邑」「阿蘇」「大津」「宇土マリーナ」に立ち寄り、参加者は特産品と手作りの加工品、道の駅ならではの出店等に興味を持たれていました。※ちなみに熊本県は道の駅が現在35カ所あり、九州で一番多いです。天草にも5カ所あります。

中々コロナの影響で実行は出来ていませんが、来年こそ毎年行っているすべての視察研修を行いたいと願います。その中で一つでも町の活性化に繋がるヒントがあればいいなと思います。



ふれあい弁当を配布しました！

70歳以上の一人暮らしのお年寄りの方々への声掛けや安否確認をすると共においしいお弁当を食べていただこうと、「ふれあい弁当」の配達を11月5日（金）に実施しました。

これは、下浦町地区社会福祉協議会と生活福祉部会の事業として、町女性部と特養聖和園のご協力を得て、年2回行っているものです。

当日は朝から特養聖和園で、町女性部の皆さんにお弁当の盛り付けをしていただいた後、民生児童委員と女性部などの皆さんとで、それぞれの地区のお年寄りの皆さんへ心のこもった温かいお弁当に言葉を添えて配達していただきました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

会長コラム

冬の輝き・・・



川崎 宏

日常生活、振興会事業に大きな制約を与えたコロナ禍の2021年もあと1ヶ月です。今、全国的に感染者が激減し、天草地区ではここ2ヶ月程新規感染者が出ていないことを大変有り難く感じています。

季節も随分進んできましたが、冬に輝きを増すのがイルミネーションです。テレビには札幌やパリのシャゼリゼ通りの眩しい光が映し出され、心がほっこりする人も多いのではないのでしょうか。

下浦地区振興会でも、地域活性化の一環として冬の一定期間、イルミネーションを設置する方向で検討しています。設置テーマはずばり、「獅子が舞う 石工とボンカンの里 下浦」です。獅子や石、柑橘類など

をモチーフにしたイルミネーションを国道沿いに設置することで、下浦地区の魅力を発信します。それは同時に皆様の心に温かい灯を点すと思います。

残念ながら地区振興会の力は微力ですので、下浦地区の企業や施設等にも設置の協力をお願いしています。地域にある団体ですから、将来的には設置やデザイン等に地域の皆様の参画をいただき、連携を深める機会にしたいと考えています。また、11月中旬頃からイルミネーションを設置されている家庭も見かけます。それぞれに創造性があり、見るたびに心が洗われます。可能であれば他の家庭にも設置に協力していただき、地域全体で盛り上げられれば嬉しい限りです。

費用もかかりますので、振興会共々「できることから一歩ずつ」を合言葉に進めていただければ幸いです。

地区振興会だより

しもむら

12月1日号

発行
下浦地区振興会
23-4733

下浦ホームページ
ひよっこりボンカン島



<http://shinoura.info/>

しもうら弁天会が「信友社賞」を受賞

「しもうら弁天会」が「信友社賞」を受賞されました。この「信友社賞」は、県内の学術文化・体育の振興に寄与する団体や個人を顕彰されるもので、熊本の篤志家が創立され、本年度44回目を迎えられます。多数の候補の中から、本年度は「しもうら弁天会」の1団体と3個人が選ばれました。

授賞式は、11月28日（日）熊本市内のホテル日航熊本で行われ、近藤康彦会長他2名が出席して、受賞して来られました。

「しもうら弁天会」は、晩柑ジュースの販売や「めじろおし」や「アマビエ」などの「下浦土(どろ)玩具(がんぐ)」の製作・販売などの益金を蓄え、下浦町の歴史的遺跡の「弁天石切丁場跡」を整備して、下浦町を活性化させようとの目的をもって活動されており、その「地域振興」と「下浦土(どろ)玩具(がんぐ)」の新たな地域文化の創出活動が認められ、今回の受賞となりました。

弁天会の皆様には、下浦さる〜くのコース設定やガイドボランティアとしても協力いただいています。

「下浦弁天会」は町内の会員26名で構成され、平均年齢67歳。

宗像桂子副会長は「地域の爺(じい)婆(ば)あ産業(さんぎょう)」ですと言われながら、和気あいあいと活動されています。

弁天会の工房は下浦郵便局からコミセンに向かって右側で、毎週月曜日～金曜日の午前中オープンされています。

工房内には、可愛いたくさんの「土(どろ)玩具(がんぐ)」が並んでいます。皆さんも一度、立ち寄られてみてはいかがでしょうか。

ふるさと祭り開催の動き！

令和3年度下浦町ふるさと祭りですが、振興会役員・町づくり部会の合同会議を行い、熊本県内の感染状況を踏まえ、開催することに決定いたしました！！今後早急に企画委員会を行い祭りの内容や周知の範囲を取り決めていく予定です！（※尚、今後感染状況によっては中止となる場合もあります）今後開催に当たりまして、区・自治会及び町民の皆様のご協力をお願いすることが出てくると思いますがその際はよろしく願います。

「石工の技術を活かす」講演会を開催

ざっくばらんの会（会長 原田総）では、10月27日に馬場天草市長並びに塩先市民生活部長をお招きして、下浦町の伝統産業の「石工技術の活かし方」や「情報の活用」について講演会を開催しました。

石材業関係者等25名の参加者が熱心に聞き入っていました。

馬場市長からは「あらゆる掛け合わせ（例えば異素材とのコラボレーション）が新しい価値を生む」ことや、発想の転換を行いニーズに合わせた取り組みが必要であること。また、塩先部長からは、情報化社会をいかに活用していくか、インターネットを含めて販売ルートの確保の重要性等を強調されていました。

今後、運営状態の改善策等の諸問題を抱えながらも、地場産業育成の観点からも行政の力や町民の皆様のご協力を頂きながら、石工の伝統を守り、後継者育成に努め、石工の町として再復活することを期待したいと思います。

下浦町の人口

世帯数：760(±0)[-3]

人口：

男 791人(±0)[+5]

女 899人(+2)[-5]

計 1,690人(+2)[±0]

※令和3年10月30日現在

※（ ）内は先月比

※〔 〕内は前年同月比

12月の行事予定

- 2日 ふるさと祭り企画委員会
- 5日 下浦さるくが仆`セン
- 中 旬 女性部会議
- 中 旬 開新会全体会
- 24日 防犯・交通安全パレード
- 29日～1月3日 年末年始休館
- 【1月】
- 1日 元日
- 4日 コミセン利用可

ありがとうございました

◇コミセンの清掃をしていただきました。

☆11月24日 下浦ひまわり会

◇近藤ハツエ様（下船場）より下浦地区コミュニティセンターへ本の寄贈をしていただきました。

